

第5回 高速鉄道ネットワークのあり方検討委員会（議事概要）

■日時：令和6年3月26日（火）10時00分～11時40分

■会場：新潟県自治会館 2階 201会議室

■出席者：別添のとおり

■内容：以下のとおり

1 議事項目（資料に基づき、事務局（新潟県交通政策局交通政策課）から説明）

（1）第4回検討委員会の議事概要等

- ・課題への対応（各案の分野別の主な課題や、課題への対応）
- ・高速化手法の概略（前回検討委員会で検討対象となった案1-2、案3の高速化手法を提示）
- ・今後の調査方針等について（今後調査・検討する事項、今後のスケジュール）

（2）高速化手法の詳細

- ・案1-2の糸魚川駅のアプローチ線や案3の短絡線ルート of 検討、ほくほく線のトンネルや橋りょうの支障検証等を実施

（3）各案の比較検討

- ・各案の概算事業費や概略工期、所要時間、技術的な課題、県民に与える影響などについて比較検討できるよう整理

（4）今後の調査方針等

- ・令和6年度の検討委員会における調査・検討項目（需要予測、B/C、事業採算性等）のほか、令和6年度における調査・検討のスケジュールについて説明

2 意見交換（委員からの主な発言項目（概要））

- 調査結果については、一般の県民が判断できるような見せ方の工夫が必要。
- 県民に分かりやすくするためには、定量的な部分と定性的な部分に加えて、高い視点で検討していくことが必要。
- 市民生活に何らかの影響があるものについては、（高速化の）メリットを享受できるようにするまでにどのようなデメリット・影響があるのか議論が必要。
- 案1-1や案3は実現性の点でいうと貨物への影響が大きく、課題の重みづけが必要。
- 北陸新幹線は12両で運用しており、上越妙高から敦賀までの各駅はそれに合わせた地上設備しか持ち合わせていないため、6両で運用するのであれば、分割併合（車両を切り離したり、つなげたりすること）をどこかで行うなどについても検討しなければいけない。
- B/Cに加えて定性効果を検討することは重要。
- 国への働きかけにあたっては、事業を明確にすることや、県民の機運醸成が大事。
- 経済合理性だけでなく、10年後、20年後の県民の暮らしがどうなっていくかを考えなければいけない。
- B/CのBについては、徹底的に詰めることが多いが、もう一方のCについては、かなりアバウトであることが多いので、可能な範囲で検討を進めていくことが重要。

高速鉄道ネットワークのあり方検討委員会 委員名簿
(順不同、敬称略)

団体名	職名	氏名	備考
同志社大学大学院 ビジネス研究科	教授	大串 葉子	委員長
富山大学 学術研究部都市デザイン学系 都市政策支援ユニット鉄道 再生・整備支援センター	特別研究教授 センター長	金山 洋一	
株式会社JTB総合研究所 西武文理大学 サービス経営学部	客員研究員 教授	波瀲 郁代	
一般社団法人 新潟県商工会議所連合会	専務理事	早福 弘	
新潟経済同友会	専務理事 事務局長	藤澤 成	
株式会社日本政策投資銀行	新潟支店長	和田 雅彦	
株式会社第四北越銀行	コンサルティング 事業部長	長谷川 徹	
長岡市	都市整備部長	水島 正幸	
上越市	総合政策部長	野上 伊織	
柏崎市	総合企画部長	井比 孝広	
十日町市	総務部長	金澤 克夫	
糸魚川市	産業部長	大嶋 利幸	代理 (WEB) : 都市政策課長 五十嵐 博文
南魚沼市	総務部長	南雲 貢	代理 (WEB) : 企画政策課 企画主幹 見留 雅之
新潟県	交通政策局長	太田 勇二	
東日本旅客鉄道株式会社 新潟支社	企画総務部 経営戦略ユニット ユニットリーダー	吉田 勤	オブザーバー
西日本旅客鉄道株式会社 金沢支社	地域共生室企画課 交通企画室長	鹿野 剛史	オブザーバー
国土交通省北陸信越運輸局	鉄道部長	笠原 由之	オブザーバー